



ブラームスを考える

講師名

桐朋学園大学教授 西原 稔

講座内容

ブラームスの創作において1869年に全曲が初演された「ドイツ・レクイエム」が大きな分岐点となっている。とくに1850年代後半から彼が手掛けた宗教合唱作品がこの「ドイツ・レクイエム」で頂点を迎える。この作品はシュッツやバッハ研究やプロテスタント神学の研究が反映されており、今回の講義のシリーズでは1866年から1869年にかけての創作を取り上げる。1869年にブラームスはきわめて厳粛な「アルト・ラブソディー」とともにもっとも大衆的な「ハンガリー舞曲」の最初の2集を刊行する。これもブラームスの創作の一つの形であろう。



- 第1回「ドイツ・レクイエム」第1曲から第3曲
- 第2回「ドイツ・レクイエム」第4曲から第7曲
- 第3回「リナルド」
- 第4回 合唱作品「4つの歌」（作品46）「5つの歌」（作品47、49）ほか
- 第5回「アルト・ラブソディー」と「ハンガリー舞曲集」

2019 4/19 5/17 5/31 6/7 6/21

金曜日 15:30-17:00

会員 16,200円 一般 19,440円 全5回